

「ハツ場ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

平成 23 年 11 月 7 日（月）15:00~17:00

さいたま新都心合同庁舎検査棟

発言者：意見発表者 2 2

こんにちは。群馬県高崎市からまいりました、「●●」と書いて、●●と申します。普段は、農業をやっております。今日、この意見を述べるに当たりまして、一言ここへ来るまでの景色を見ながら、ものすごい覚悟をしたことを一つご報告させていただきます。というのは、私は昭和 40 年から子育てが始まりました。まさに、高度経済成長を突っ走る時代の子育てでありました。本当にそれまで日本人が大切にしてきた生活、いわゆるゴミを出さない循環型の生活を本当に根っこから否定して、ゴミを出すことによって金儲けができる社会に突っ走る、まったく中での子育てでした。もう母乳よりは、ミルクという時代でありました。そして、色々なアレルギーや何かが起こってきました。それから、例えば山や何かでは、松食い虫や何かで山の木が枯れ始めました。そして、空中散布というような形で、一生懸命薬を蒔くんですけども、住民の人たちの健康被害は広がり、木のいわゆる薬蒔いたから、じゃあ枯れが止まるのかって言ったら、むしろその枯れが広がるような薬を蒔くような、いわゆる松枯れや何かの対策は進んだんですね。一体こんなことをしてどうするんだろうか。それから、あとは、いわゆる核家族化です。もう本当にみんな、家中で語り合いながら色々なことを考え、生活をしてきた人たちが、テレビの方を向いて、人間を見ないような、そういう生活が、当たり前になってきて、そして段々に一人ひとりが、孤立するような、そういうモノの豊かさと同時に始まってきました。そういう中で、いやあ、どうしたらいいんだろうか、ということで非常に私は、子供をなにしろ健康に育てたい、という一心で、考えても、そういう考えを本当に、これなら、そういうふうにできるかな、っていうような、頼りになる情報というのは本当にありませんでした。それで私は、本当に自分で、人間っていうのは、健康に育つためには、食べ物と言葉、これが重要な鍵を握っているのだな、ということで、図書館などでお話を始めたり、あるいは自分で近くの畑を耕したりしながら、それをすることによって、どういうわけだか、家族、病気もしないで、主人は 37 年間、無遅刻・無欠勤で、本当に仕事をさせてもらえるような、子供達も、本当に、子供達の教室だけ、病気の学級閉鎖がないような、3 人居るんですけども、そのような環境というのができてきました。そして、今、子供がどういう生活をしているかという、「いや、本当は大企業から誘いが来るんだけど、そしてそうすれば、金が入るんだけど、俺は大企業に入るとどうしても軍事産業に関わるような、そういう仕事をさせられてしまう。そういう不安がある。」と、「それに対応するだけの能力はないから、俺は大企業には行かない。そして、自分の食べるものは自分で作る。それしかこれから生きる道はない。」と言って、本当にピアノを弾いたり、コンピュータを打ったりしているだけのようなへなちょこの息子達が農業を始めました。本当に機械を使わずに体一つで作るの続くのかな、と思いましたが、かろうじて続けております。そして、味噌や何か全て、自分の手作りの米や大豆で、塩だけは買いますが、味噌を作って、皆様にお分けしながら、生活をしているというような、そういう環境になりました。私はそういうふうには、本当はなっほしいとは思っていたんですけども、子供自らがそういう道を選んでくれたということで、私が言葉を与え、食べ物を得るために努力したことが、少しは役に立ったのかな、ということで、なにしろ、良い家に住まい、車に乗り、それが満足じゃなくて、人間として満足できる、そういう生き方をしてほしいという願いが、今子供にとっても、叶えられているような気がします。それは、本当に私、よかった

な、手探りでやったことだけよかったなと思っています。そして、その過程で、実は倉渕ダム問題に出会いました。そして、一体これは何が問題なのか、ということで考えた時に、いや、開発のために、本当に自然の目に見えない力、これを全部踏みこむのが近代科学。それと新しい工業生産に突っ走るための手段なんだなっていうのがわかりました。どういうことかと言うと、さっきも、地下水がというお話がありましたけれども、地下水は無くなる。っていうふうに言うておりますけれども、ちゃんと調査すれば、こんな火山国で豊かな帯水層があるところで、地下水が本当に貧しいってことはないんですよ。ただ、それをどういうふうに使うかが問題なんですけれど。でも地下水は見えないから、何しろ汚れてる。それから水量は少なくなっている。そして、木々の帯水能力。高崎市は、涵養林を倉渕の山に植えているんですけども、その涵養林の帯水能力って言ったら、倉渕ダムの 60 倍もあるような帯水能力があるんですよ。だからダムなんか造らなくてもいいんですけども、実はそれは、安定水利権の中には入れてないんです。それからもう一つ。水の浄化ですね。ダムをこしらえると、全部急速ろ過になります。薬で浄化します。ところが、高崎の場合は、緩速ろ過という、本当に自然の微生物を活用した緩速ろ過が、本当に奇跡的に残っているところでした。ところが、その倉渕ダムでも、その緩速ろ過施設は、本当はないものにして、急速ろ過を作る場所を設定しておりました。ああ、そうだ。こういう新しい技術というのは、この自然界の見えない力を否定して成り立つのが今の社会なんだな、っていうことが、わかりました。そして、今来る途中見たこの素晴らしい建物。本当に度肝を抜かれました。でも、微生物はそんな建物の力よりは、もっともっと素晴らしい力があるんです。そのことを私は、農業をしながら、あるいは倉渕ダムを見直すという活動を通して、山を歩きながら、それから緩速ろ過の微生物のこの動きを見ながら、いやいや、この力を否定して、そして、こんな建物に頼って生活することに安住してはいけないな。この建物に負けないような力を微生物の中に、皆さんに見出してもらいたい、そういう思いで発表をさせていただきます。その発表の内容は、品木ダムについてであります。簡潔に、このレジメに従って、お話をさせていただきます。品木ダムの問題。1. ハッ場ダム建設の原点である品木ダムの検証項目がない。こんな 300 ページのをいくらめくっても、品木ダムという項目はありませんでした。2. 吾妻川の酸性水を中和するために品木ダム上流に 2 つの香草と、あとは草津の工場、中和工場が建設されているが、吾妻川全体を中和してないことが分かる。これは印刷してもらえなかったのここだけです。中和してる。こっちは全然中和しておりません。じゃあ、どうして、吾妻川が中性になっているのか。これは東電が発電のために、導水管をもって、全部引いているからです。そして、吾妻川ではないところに行って、放流しているから、何とか中性が保たれている訳です。ですから、もし、ハッ場ダムをこしらえた時に、水が足りなくて、東電から水をもらったとしたらば、その水が酸性水でダムは壊れてしまうと思います。そういう懸念があるのです。3. 中和工場は、現在 1 日約 60 トンもの石灰を投入し続けて中和事業をしているというが、石灰を生成して川に流す。これは、石灰そのものを出してきている、なんで、山の土を掘削してきてそこで石灰を生成して、川に流しているんですね。それは廃棄物処理法に違反しているのではないかと、そういう書物も見ました。それは、私が研究したことではないので、確かなことではないのですけれども、これは間違いないと思います。4. 中和生成物の中のヒ素について。溜まり続ける中和生成物を浚渫してダム周辺に積み上げているが、その中に現在ドライベースでヒ素が 500 トン以上溜まっていると上智大の木川田教授は研究報告している。それは、25 億人の致死量と言われている。この裏にも木川田さんの記事がちょっと出てますので後で帰られたら読んでいただければと思います。続きます。本来ヒ素の危険性を除去する方法として、まずヒ素を分離沈殿させるため、水溶性ヒ素化合物を第 2 鉄塩によって不溶化処理し、ヒ酸イオンに鉄イオンを加えると不溶性ヒ酸鉄として沈殿させる方法がある。共沈法といいます。ヒ酸イオンに

鉄イオンを加えると不溶性ヒ酸鉄として沈殿させる方法があるが、品木ダムの目的は中和が目的であるため、現在までそのような事業はされなかったし、する計画もないことが問題である。なぜなら、現在中和生成物は、浚渫し、水を絞ってセメント固化してダムの周辺に積み上げられている。ヒ素を含む産業廃棄物は、汚泥の形をとっているが、廃水処理された汚泥は、ヒ酸鉄となっている。それは、ペーハーが高いと水溶性のアルカリヒ酸塩と不溶性の水酸化鉄とに分解する。従って、アルカリ分を多量に含むセメントで固化すると、例えそれが、ヒ酸鉄で安定していてもヒ酸鉄が分離して水溶性ヒ酸塩となって溶出して、周辺をヒ素汚染する危険が予測される。ダム建設より、このヒ素の処理とこれ以上不自然な中和を止めることこそ課題であると思います。5. その積み上げた堆積物は、それだけ危険なものであるが、問題は、火山活動や地震によって崩れ落ち、吾妻川に流れ出す危険な地層の上に積み上げられていることである。6. もともと魚がいなかった川に魚が居ること自体不自然であると、地元の人々も言っている。そして、それでも古代から人々は、素晴らしい文化を育てた温泉地を造ってきた。自然の浄化機能を利用する生活を大げさに言えば、全国各地のこの種の温泉地では当たり前のこととして営んできたのである。自然の仕組みを無視し、実行される絵に描いたようなハッ場ダム。図面のままで残して欲しい、切に願っております。以上です。ちなみにこれは、森永ヒ素ミルク、昭和30年の時にあった、ヒ素の事件のことが載っています。何しろ原因が分かるまでに、時間がとてもかかりました。大変なことです。

以上